

県協・分会大会 早期の開催を！

一〇月五日、国交労組東海建設支部は、人事院勧告後の確定期交渉を行いました。

深見委員長は、人勸に関する要求、退職金改悪反対、処遇改善、空ポスト等の職場要求について、塚原局長の姿勢を質しました。

塚原局長は「皆さんの意見は、身にしみ認識している」と回答し、本省への働きかけを約束しました。

深見委員長が、 六点の要求を指摘

交渉の冒頭で深見委員長は、①人事院勧告について、給与制度の総合的見直しで高齢者を中心に賃金改善を実感できない、中央と地方、地方間の賃金格差の是正、扶養手当改悪反対、②退職金の改悪反対、③処遇改善では、ベテラン職員、再任用職員の具体的な要求実現、④空ポストの早期解消、⑤パワハラ根絶、⑥マイ



賃金改善を訴える深見委員長

ナンバーカードと職員証の一体化反対について、指摘しました。

深見委員長の指摘に對して、塚原局長は、業務執行への感謝を述べながら、「元気で、モチベーション高く働いてもらうことが大切」「働き方改革は業界だけの話ではなく、我々もやっていく」と回答しました。

意見、身にしみる 本省に話すると回答

人勸関連の要求には、「皆さんの意見は身にしみ、認識している」と回答し、組合の賃金改善の実感できない、事務所間での賃金格差解消に理解を示し、「地



「身にしみる」と塚原局長

方部でも大変な仕事してもらっている。業務は複雑化していることも感じていいる。空ポストのカバーもしてもらっており、我々も工夫しているが、(職場に)ご苦労かけている。そうした職場実態をしっかりと話をしているか」と改めて本省への働きかけを約束しました。

退職金改悪反対は 重要な関心事と認識

深見委員長は、我々の退職金は五年前に四〇〇万円削減され、また七八万円もの削減がなされれば、今後五年ごとの改悪が強行されることとなる。職員の生涯設計に大きく影響するので、改悪反対の声を改めて上申して欲しい。と訴えました。

塚原局長は、「重要な関心事と認識しており、話を伝える」と回答し、改めて本省へ話をすることを約束しました。

五級で良いと思っていない一人一人良くなるよう努力
深見委員長は、ベテラン職員の処遇改善について、退職時に誰でも六級、当面五級昇格を求めている。局長として来年四月期人事に関する考えを聞かせて欲しいと迫りました。

三宅調査官が、「全体が良くなるように努力」との回答に終始する中、支部から「五〇代の係長層が四級になれず、退職年次五級昇格ではなく、誰でも六級で退職出来るようにするつもりがあるか」と厳しく追及され、塚原局長は「五級で良いと思っていない。一人一人良くなるように努力する」とベテラン職員の処遇改善について、処遇の谷間となつている職員一人一人を念頭に人事作業をするように求めて支部の要求にこたえる姿勢を示しました。

今後、身上書の提出等実施される中で、職場での要求総組織総対話運動を展開しながら、職員の事情・要求を把握し、積極的な昇任・登用要求を組織し、当局へ提出していきます。併せて、四下期要求実現の各種運動への参加を募りながら、当局への取り組みを強化していきます。

給与制度の見直し、給与格差、退職金等々

皆さんの意見は、身にしみ認識

空ポストの早期解消要求に

出張所の機能を先陣で詰めるよう努力する

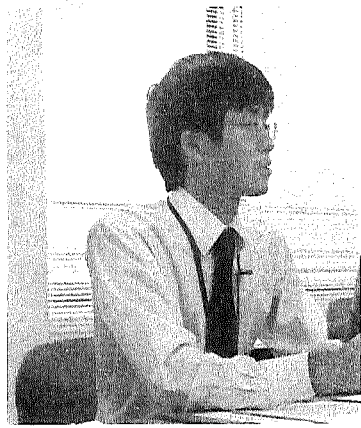
現場での頑張り把握
意識的に回っている

塚原局長は、全事務所を
訪れた後、各出張所を訪問
している模様です。

支部から出張所でのやり
取りを指摘され、塚原局長
は「現場で頑張っている状
況を把握するため、意識的
に回っている。業務の根幹
となる事業執行・災害・地
元対応など努力してもらっ
ている」と回答しました。

塚原局長は、「事務所と
出張所の行き来や、休暇を
取るときに気をつかうこと
と、出張所が留守になるこ
となど、ご苦労されている
ことを聞かせてもらった」と
回答しており、訪れた出
張所毎に、所長をはじめ、
出張所職員にも声をかけ
て、話を聞いていることを
明らかにしました。

支部からは、空ポストの
状況を把握し、出張所の統
廃合を検討しているのでは
ないか、との意見もある。
局長として空ポストを減ら



空ポスト解消を！ 佐々木執行委員



フルタイム再任用を！ 辻副委員長

していくつもりはあるか？
との問いかけには、「その
つもりです」と回答し、出
張所の統廃合を進めるの
か？との指摘には、「誤解
です」と回答し、局長とし
て出張所の業務執行体制を
把握するために出張所への
訪問をしていることを強調
しました。

出張所係長は地元熟知 災害時の対応等に不安

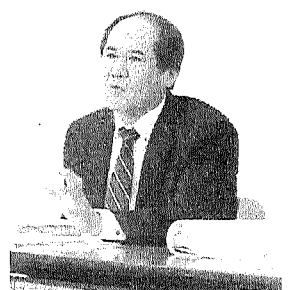
担当者を代表して本局分
会の佐々木執行委員から、
「出張所係長は地元を熟知
しており、災害時にも対応
できる。自分が係長昇任す
るころには、出張所がある
か不安がある」と率直な意
見が出されました。

これに対し、塚原局長は、
「(出張所は)大変重要な役
割を果たし、頑張ってもら
っている。出張所の機能を
発揮してもらうように努力
するのが我々の仕事」と回
答し、出張所の空ポストに
対して、減らす努力と機能
強化を約束しました。

再任用職員の処遇改善で
は、辻副委員長から「再任
用はフルタイムが基本とい
うのが閣議決定、賃金も各
級最高号俸の約七〇%、し
かし、地整は現役時代の在
級から下げられ、しかもハ
ーフで現役時代の四割・五
割の賃金となっている。最
低でもフルタイム勤務を認
めろ」と厳しく追及しまし
た。

これに対し地整は、「定
員事情や若手の採用といっ
た中で、判断しており今年
は一名になった」と回答し
ました。支部から、「年度
途中で五名が退職してお
り、定数は空いている、採
用しないなら、フルタイム
再任用に活用できるではな
いか」と指摘しましたが、
「制度上は可能」としなが
らも「様々な事情がある」
としてごまかさうとしたた
め、「検討したのか」と追
及したところ、三宅調査官
はフリーズし回答不能とな
りました。

その後、改めて再任用職
員のフルタイム任用を追及
され、塚原局長は、「フル
タイムが少ない状況が決し
て良いとは思わない。何が
できるか考えていきたい」と
回答し、フルタイム再任
用に関する認識を明らかに
しました。職場での取り組
み如何によっては、フルタ



フリーズした 三宅調査官

深見委員長は、「パワハラ
ラについて、中部地整独自
でポストの張り出しを決
めたことは我々の指摘を受
け、実施しており、評価で
きるが、一月だけでは、不
十分ではないか」と指摘し、
中部地整としての認識を問
いました。

塚原局長は、「パワハラ
はあってはならないこと。
何かしなければとの思いの
中で、意見もいただしてい
るので、何かやらなければ
との思いでやってみた」と
東海建設支部の強い要求を
受け止めた結果であること
を明らかにしました。

また、マイナンバーカー
ドと職員証の一体化につい
ては、「マイナンバーカード
の取得は任意であるが、
職員証との一体化について
は、ご理解とご協力を」と
の姿勢に終止し、強制する
などの追及に、「ご懸念・
ご心配であるようなこと
のないようにする」と強制し
ない旨、回答しました。